

『地球の歩き方』 第四回旅行者意識調査を実施

旅行ガイドブック『地球の歩き方』を発行する株式会社地球の歩き方(本社:東京・品川区)が運営する地球の歩き方総合研究所は、この間の新型コロナウイルス感染症の影響で経験したことのない行動制限や渡航制限のなか、2020年5月より過去三回、旅行者の意識調査を実施してきました。

今回は旅行への明るい兆しが見え始めてきた本年5月連休前後に意識調査を実施、266名の方から回答をいただきました。

<調査結果の主なポイント>

・海外旅行の検討開始は、「日本帰国時の検疫手続き(現地での検査証明書提出+入国時の検査など)が撤廃されたとき」、「渡航したい海外の国・エリアでの入国制限がなくなったとき」、「帰国後の自宅待機が完全に解除されたとき」。この3つが大きなポイント。

・調査時点で、海外旅行への「情報収集を始めた」が27.4%、「予約済み」が8.3%と3割強が海外旅行に前向き。その一方、「もう少し時間が経ったら考える」も44.7%に。

・海外旅行出発希望時期は、1.2023年7月以降、2.2022年11-12月(年末年始含む)、3.同9-11月の順となり、全体の約4割が年内出発を希望している。

・海外旅行頻度は2019年と比較して「変わらない」が61.3%。

・希望している旅先候補上位5

1.ハワイ 2.アメリカ合衆国 3.台湾 4.フランス 5.スペイン

・今、知りたい情報は「レストラン・ショップなどの店舗や観光施設等の運営状況」、「最新のアクティビティ、見どころ、宿泊施設情報」と、この間なかなか伝わりにくかった現地の最新情報が求められている。同時に日本とは異なる現地の人々の行動様式や万が一の際の医療体制なども必要としている。

○今後の旅先選びや旅のスタイルについて

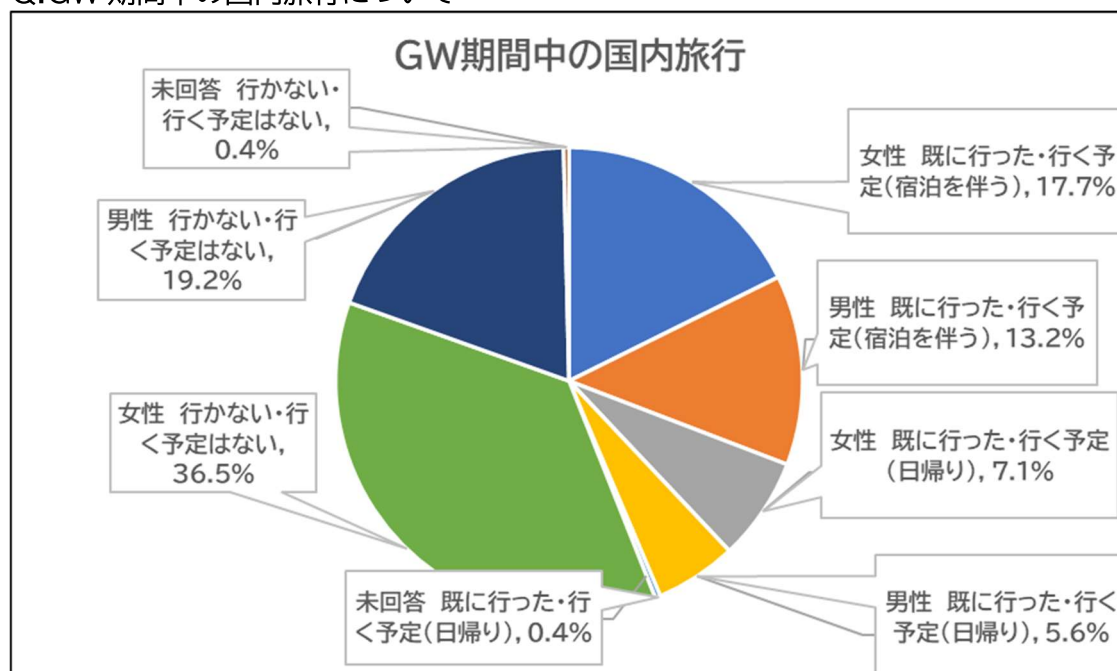
・今後の観光産業にとって大きなテーマである「持続可能な観光」という言葉・活動については、42.1%が「知らない」、「聞いたことはあるが意味が分からない」が35.7%と全体の約8割にまだ届いていない。

・しかし、「地元ならではの食文化体験や地産地消の料理、またはその料理体験をする」、「古くからその地で育まれてきた地域の有形無形の伝統・文化資産を観光・体験する」が旅先で興味ある体験の上位となり、この観点から認知を高めていくことが一つの手法として考えられる。

・「ワーケーション」については、約6割が「体験してみたい、体験済み」と関心あり。年代別では49歳以下で関心が高く、男性の方が意欲的な反応。

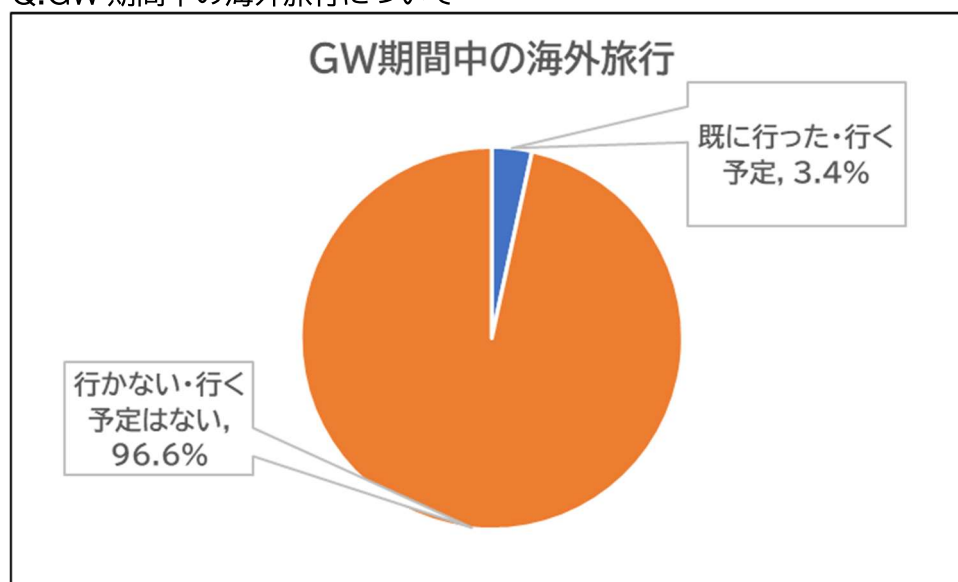
1.GW 期間中(2020 年 4 月 29 日～5 月 8 日まで)の国内旅行について
 ●44%の人は宿泊あるいは日帰りで国内旅行を実施。

Q.GW 期間中の国内旅行について



2.GW 期間中(2020 年 4 月 29 日～5 月 8 日まで)の海外旅行について
 ●「行った、行く予定」はわずか 3.4%にとどまる。

Q.GW 期間中の海外旅行について

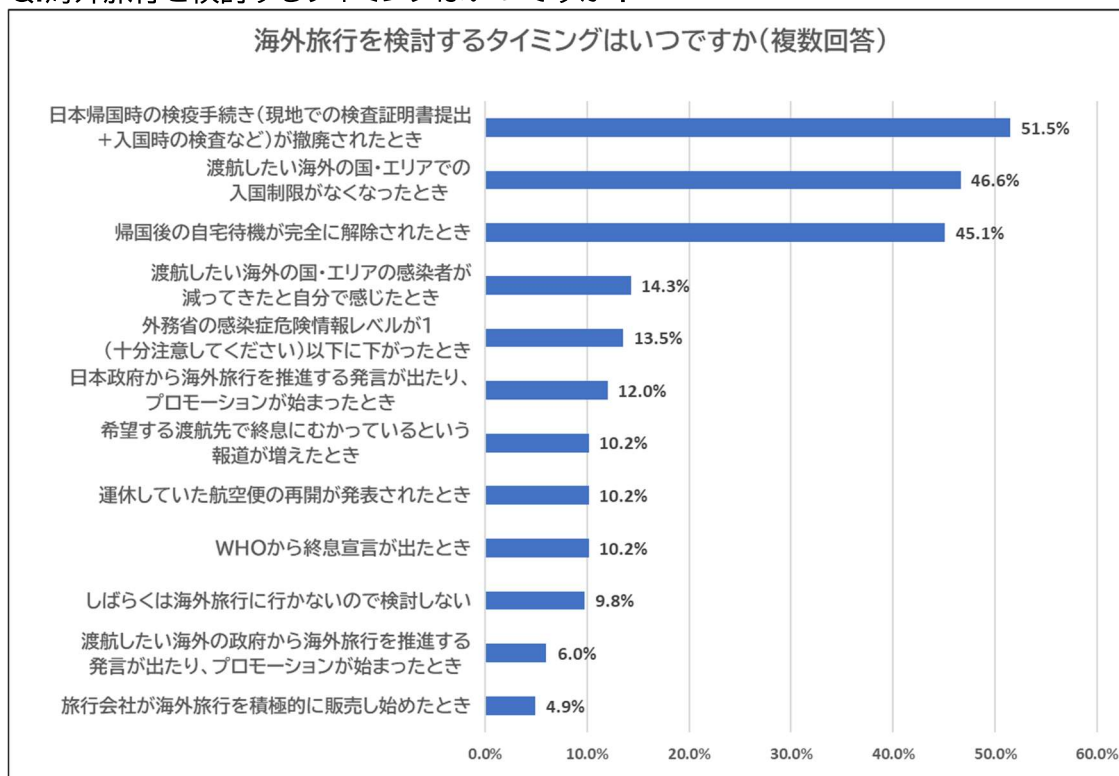


3.海外旅行検討のタイミングについて

●「日本帰国時の検疫手続き(現地での検査証明書提出+入国時の検査など)が撤廃されたとき」51.5%、「渡航したい海外の国・エリアでの入国制限がなくなったとき」46.6%、「帰国後の自宅待機が完全に解除されたとき」45.1%と続く。

日本からの渡航者への入国制限がある国・地域は減少が続き、5月26日に外務省は感染症危険情報を見直し、36カ国・地域に対して、レベル1に下げられたものの、現在も続く、日本帰国前に現地でのPCR検査と陰性証明提示は最大のハードルとなっている。

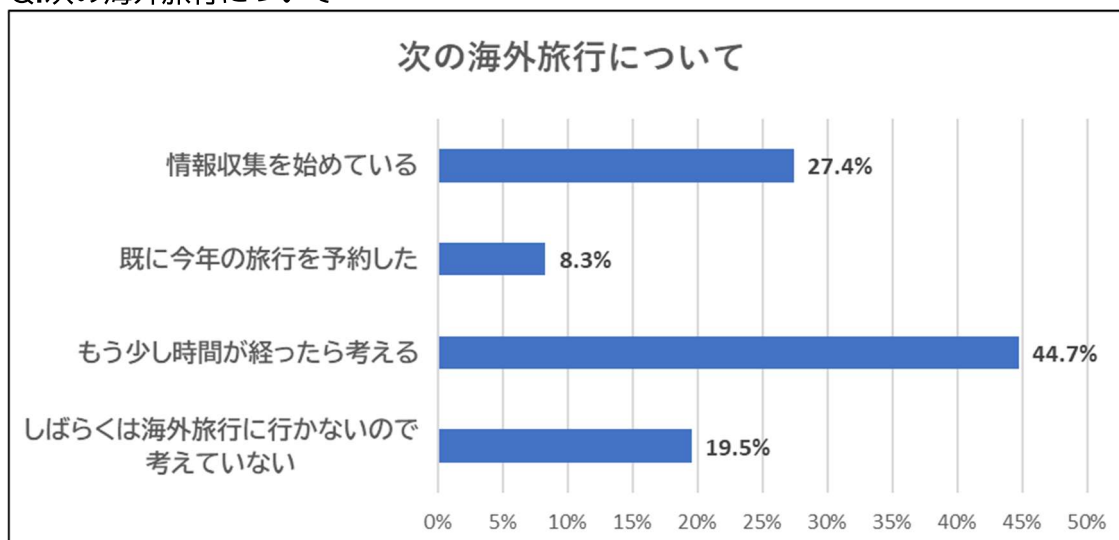
Q.海外旅行を検討するタイミングはいつですか？



4.次の海外旅行へのアクション、希望出発時期、今後の旅行頻度について

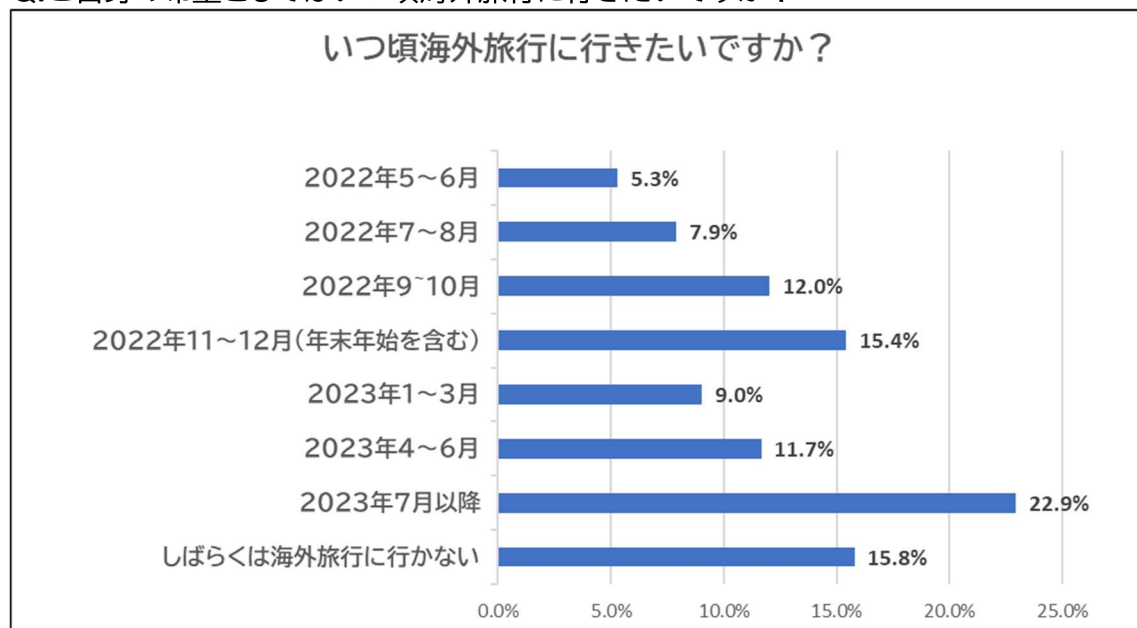
●「情報収集を始めた」が27.4%、「予約済み」が8.3%と、3割強が海外旅行へ前向き。その一方で「もう少し時間が経ったら考える」も44.7%に。

Q.次の海外旅行について

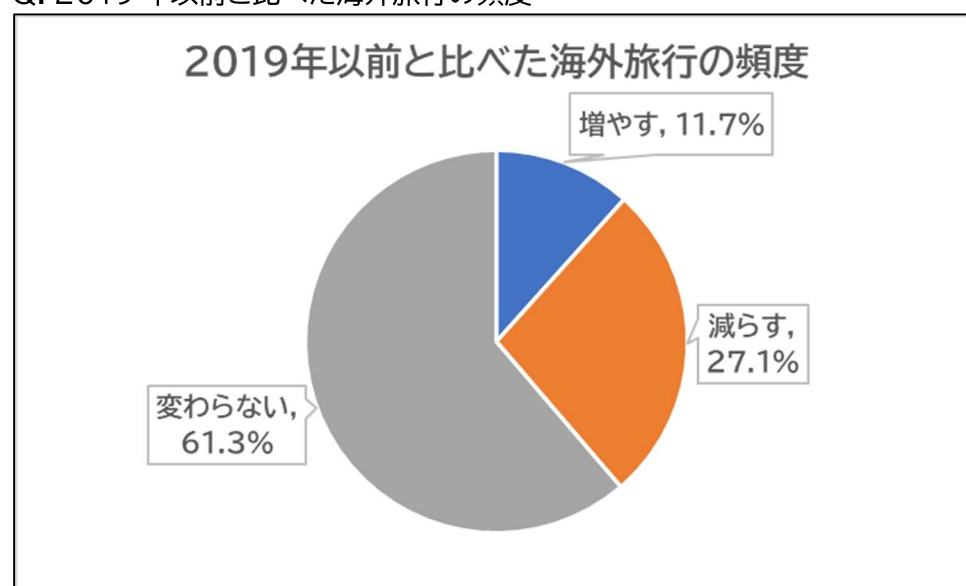


- 希望出発時期は「2023 年 7 月以降」22.9%、「2022 年 11-12 月」15.4%、「2020 年 9-11 月」12.0%の順となり、約 4 割が年内出発を希望している。
- 2019 年と比較した旅行頻度は 61.3%が「変わらない」との回答。

Q.ご自身の希望としてはいつ頃海外旅行に行きたいですか？



Q. 2019 年以前と比べた海外旅行の頻度

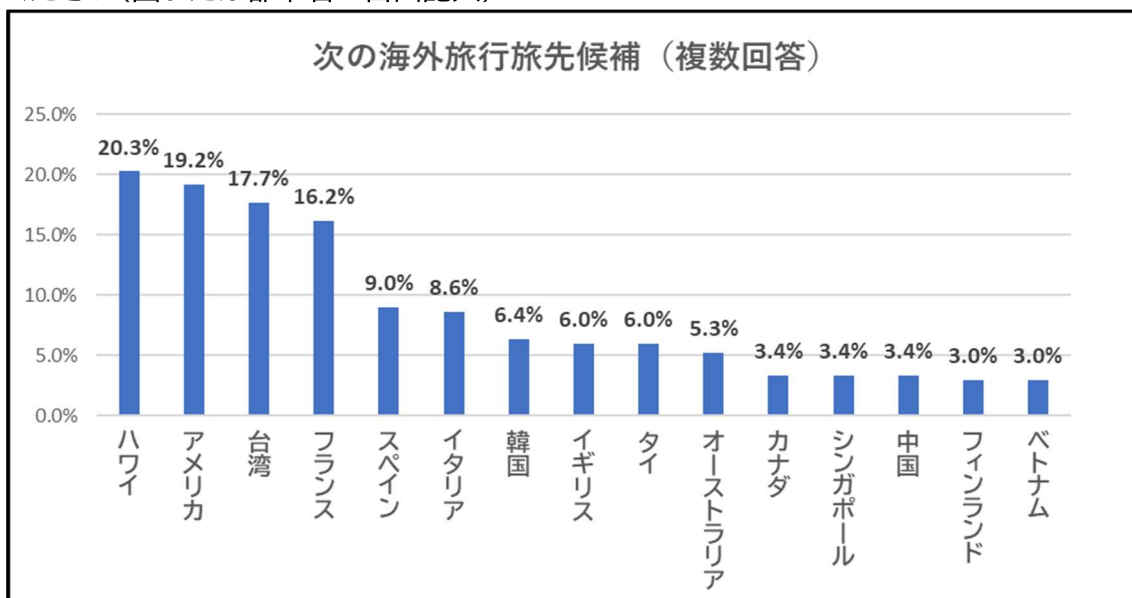


5. 次の海外旅行 旅先候補上位5

1. ハワイ 2. アメリカ合衆国 3. 台湾 4. フランス 5. スペイン

以下、イタリア、韓国、イギリス、タイ、オーストラリア、カナダ、シンガポール、中国と続く。2020年5月に調査した、2020年4月以降に渡航を予定していた旅先の上位はフランス、ハワイ、台湾、アメリカ合衆国、イタリア、スペインだったので、再チャレンジ(リベンジ)旅行ともいえる。

Q. 次の海外旅行での旅先候補は(国または都市名)どちらですか。上位2つまで教えてください(国または都市名の自由記入)



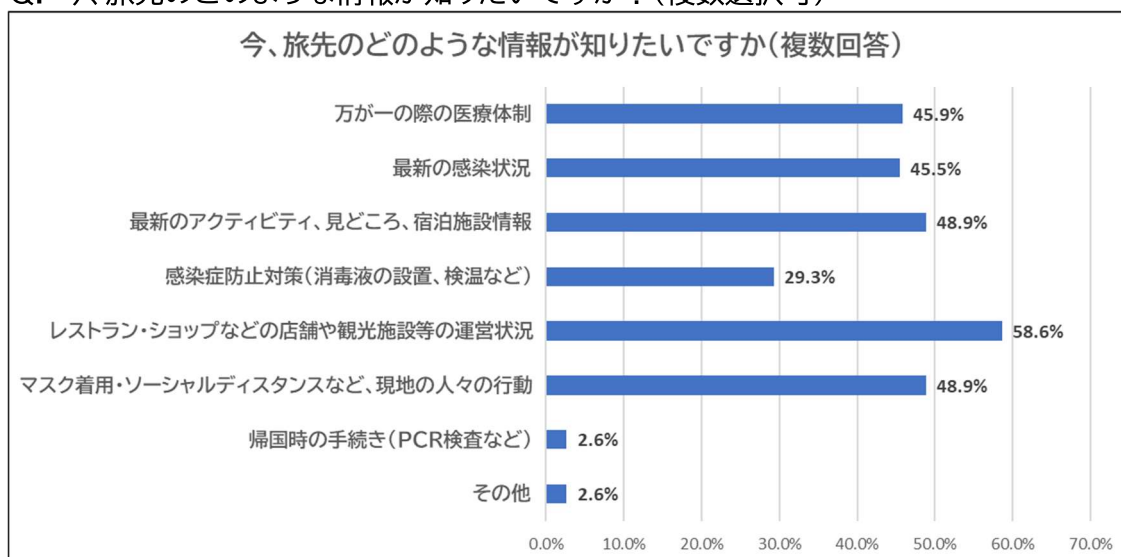
(上位のみの抜粋)

6. 今、知りたい情報とは

●「レストラン・ショップなどの店舗や観光施設等の運営状況」58.6%、「最新のアクティビティ、見どころ、宿泊施設情報」48.6%とこの間なかなか伝わりにくかった現地の最新の情報が求められている。

同時に日本とは異なる現地の人々の行動様式や万が一の際の医療体制なども必要としている。

Q. 今、旅先のどのような情報が知りたいですか？(複数選択可)

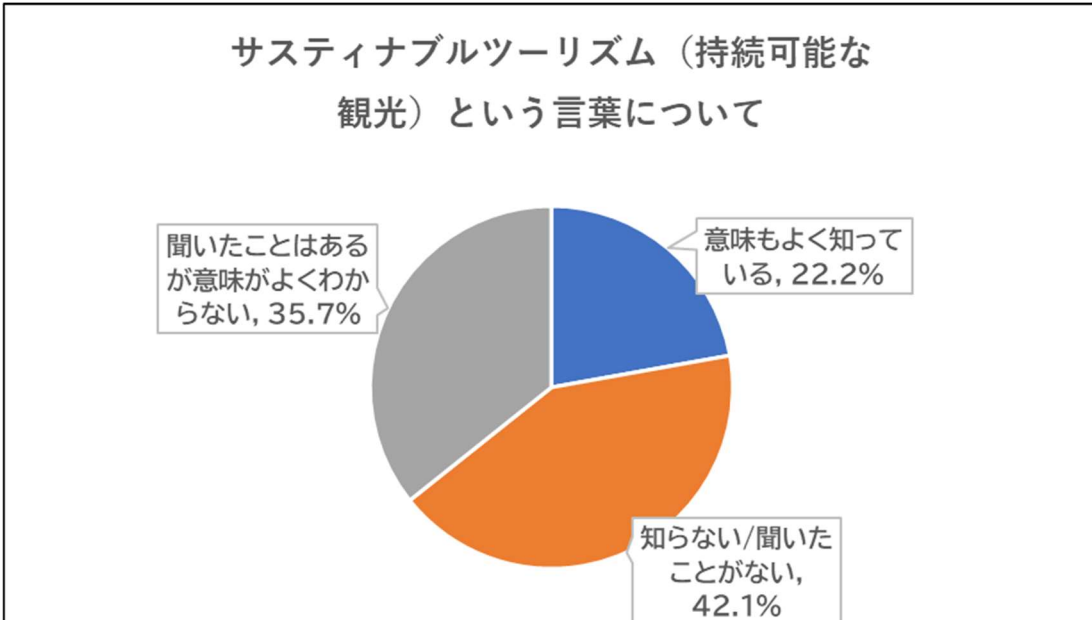


<今後の旅先選びや旅のスタイルについて>

5. サステナブルツーリズム(持続可能な観光)について

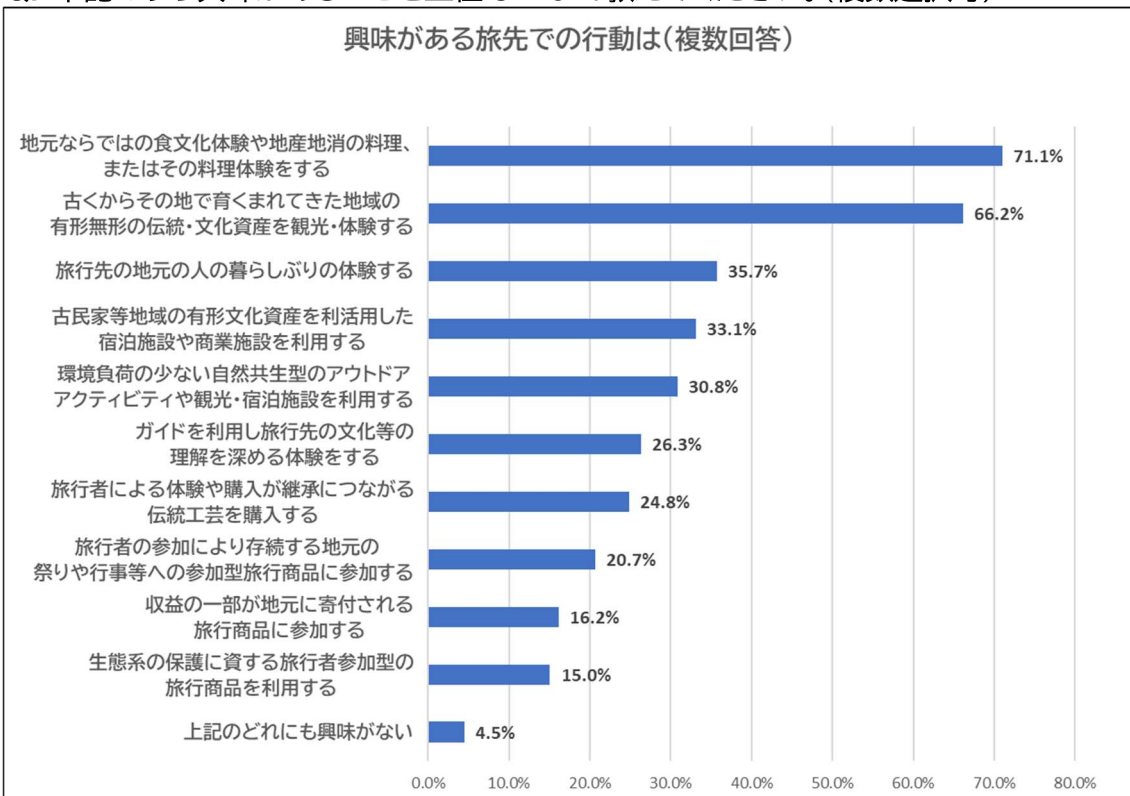
●今後の観光産業にとって大きなテーマである「持続可能な観光」という言葉・活動については、42.1%が「知らない」、「聞いたことはあるが意味が分からない」が35.7%と全体の約8割にはまだ届いていないようだ。

Q. サステナブルツーリズム(持続可能な観光)という言葉について



●しかし、興味がある旅先での体験を聞くと、「地元ならではの食文化体験や地産地消の料理、またはその料理体験をする」、「古くからその地で育まれてきた地域の有形無形の伝統・文化資産を観光・体験する」が上位となり、この観点から「持続可能な観光」への認知や理解を高めていくことが一つの手法として考えられる。

Q. 下記のうち興味があることを上位5つまで教えてください。(複数選択可)



10.ワーケーション(*)について

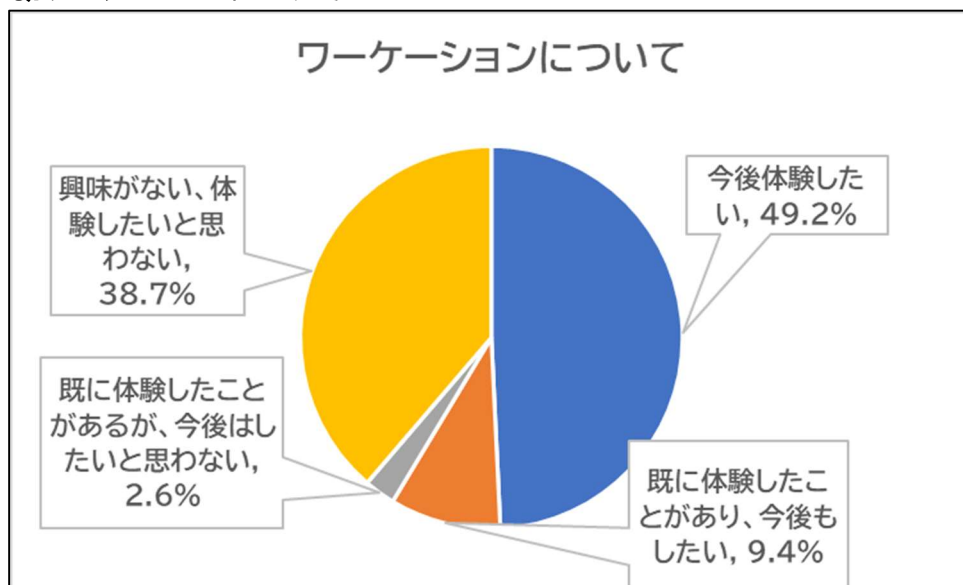
●今後の新しい旅のスタイルとして注目を集めている「ワーケーション」については、約6割が「体験してみたい、体験済み」と関心が高い。

年代・性別では49歳以下で関心が高く、男性の方が意欲的な反応となった。

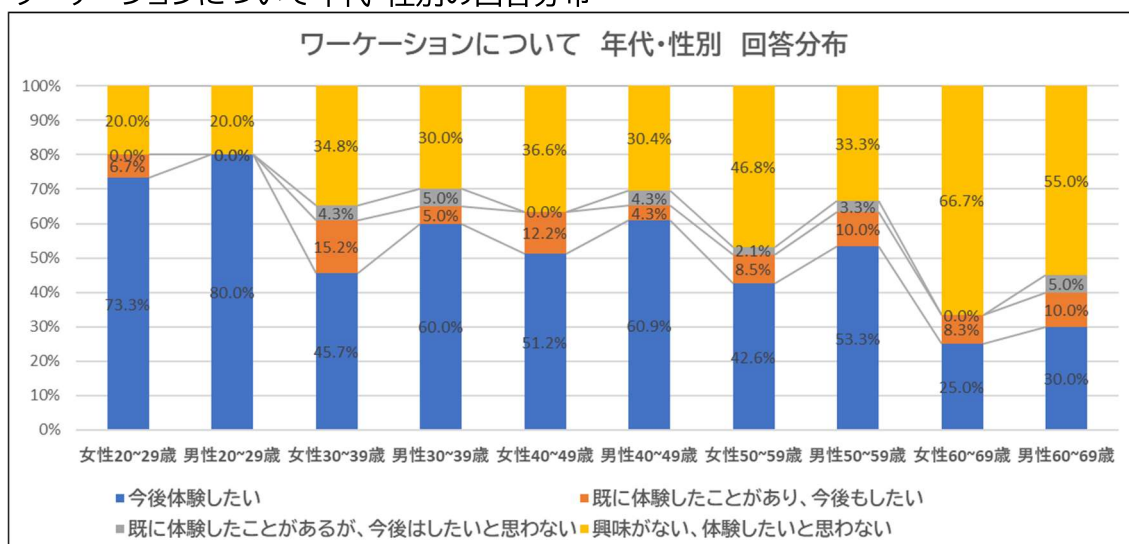
今後、関心の高いターゲットへの自治体や施設などによる告知・展開が成功への鍵になりそうだ。

*仕事(ワーク)と休暇(バケーション)を組み合わせた言葉。旅先に滞在しながら、テレワークなどを活用し仕事をすること。

Q.ワーケーションについて



ワーケーションについて年代・性別の回答分布



<おわりに>

この調査期間終了後に、36 カ国への外務省感染症危険情報がレベル1に下げられ、6 月 10 日に訪日観光が制限付きの解禁。12 日には米国へ入国する際に義務付けられていた、日本出発前の PCR 検査・陰性証明提示も廃止され、いよいよ海外旅行・訪日旅行再開への動きが活発になってきました。

今回も自由記入欄には旅への熱い気持ちが詰まったコメントが寄せられています。「コロナ前は年に一度の海外旅行のために働いていたと言っても過言ではない」、「旅は現地での非日常体験を通じて日々の雑念や煩悩から解放され、明日への活力等を養える貴重な時間」、「旅は楽しみが詰まったワンドラフルなもの。このために、これを目標に仕事を頑張れるので、僕にとっては旅行はなくてはならないものです」。

そして、「コロナ禍で海外に行けなくなって、改めて旅の価値を感じました」というメッセージが皆さんの気持ちを代表している、と思います。

「現地のレストランやホテル、各施設、アクティビティの最新情報」が知りたい情報の上位となり、「我慢した分、行った時に思い切り楽しめるように情報収集しておきたい」という、声に応えるためにも、観光に携わる各団体、事業者が最新かつ正確で魅力的な旅の情報発信をしていくことが求められています。

◎本件についてお問い合わせ、調査結果の利用に関しては
株式会社地球の歩き方 地球の歩き方総合研究所 奥 健 okutak@arukikata.co.jp

●アンケート調査実施期間:2022 年 4月25日～2022 年 5月20日

地球の歩き方ホームページ、SNS などにて告知、フォーム(選択式、自由記入)による回答。回答者数:266 名(男性 101 名 女性 163 名 無回答 2 名)

